

子宮頸がんワクチン（HPV ワクチン）のキャッチアップ接種について

こんにちは。公立八女総合病院 産婦人科医 宮川三代子です。

今回は、子宮頸がんワクチン（以後：HPV ワクチン）が気になってはいるけれど、自分やもしくは子供に接種させるのが、どうしても踏ん切りが付かない、躊躇してしまうという方へ HPV ワクチンとキャッチアップ接種のお話を少し詳しくお話したいと思います。



■ ワクチンの反響と世界と日本の接種状況

約 10 年前に HPV ワクチン接種が始まったころ、当初のテレビでの報道を見た時、産婦人科医である私自身も どうしていいかわからず困惑し、積極的に勧めをすることをやめてしまっていました。

それから 10 年経ち、日本ではたくさんの若いママたちが「子宮頸がん」により 亡くなったり、子宮を失ったりしました。

人は、自分の家族や友人など、身近な人が病気になってから初めて、「しまった！」と悔やんでしまいますが、私は皆さんや皆さんのご家族にそうなってもらいたくありません。



世界規模で HPV ワクチンの接種状況を見てみると、HPV ワクチンの予防効果により、あと数年で国から子宮頸がん自体が消滅する国も出てきている中、日本では変わらず毎年 1 万人の方が罹患し、年間 3,000 人の方が亡くなっています。

■ ワクチンの副反応

HPV ワクチンの副反応は、インフルエンザワクチンや他のワクチンと同等です。

テレビで報道されたような症状は、HPV ワクチンを接種していない人にも同程度出るというデータが世界中で発表されています。HPV は、コンドームをつけていても手や口からうつってしまうので、予防するにはワクチンしかないのです。

■ キャッチアップ接種は期間内に接種すると無料で受けることができます

2022 年 4 月より HPV ワクチンのキャッチアップ接種が始まって、今年 9 月までに 1 回目を接種すれば、約半年をかけて合計 3 回すべて無料で接種できます。(通常は 3 回で約 10 万円かかります)

接種していれば子宮頸がんを予防できますし、がん検診では見つけにくいタイプのものも予防できます。

接種を躊躇われている方、もしくは自分の子供や親戚に対象者がいるけれど、決めきれないでいる方は一度、当院産婦人科までご相談ください。

しっかりと必要な情報を得て、接種しても、しなくても、対象者である本人が後悔しないように、HPV ワクチンについて一緒に考えていきましょう。

キャッチアップ接種事業実施期間

令和 4 年（2022 年）4 月 1 日～令和 7 年（2025 年）3 月 31 日

キャッチアップ接種対象年齢

平成 9 年度（1997 年度）生まれ～平成 19 年度（2007 年度）3 月 31 日生まれ
（今年およそ 16 歳から 26 歳まで）

接種が出来る条件

- ・キャッチアップ対象年齢に該当すること
- ・子宮頸がんワクチンの接種が完了していないこと
- ・福岡県内に住民票を持つこと



ご不明な点がございましたら当院までお問合せください。 産科部長 宮川三代子